

2025年度 登録あと施工アンカー基幹技能者 試験(問題用紙)

2025年10月5日(日)実施

解答用紙の所定欄に、受験番号、氏名(フリガナ)、を記入してください。
受験番号の欄は、記入例を参照し、間違いのないように塗りつぶしてください。

【試験にあたっての注意事項】

1. 試験係員の「始め」の合図があるまで、試験問題の内容を見てはいけません。
2. 「始め」の合図があったら、ただちに問題用紙のページ数(7ページ)の不足および印刷の不鮮明なところがないかを確認してください。もし、不足等がありましたら取り替えます。手を挙げてお知らせください。
3. 試験問題の内容についての質問には、お答えできません。
4. この試験の解答時間は、「始め」の合図があってから 60 分です。途中で退室は試験係員の指示に従ってください。
5. 途中で退室を希望する方は、問題用紙と解答用紙を机の上に裏返しにし、手を挙げてください。試験係員の指示を得た後、静かに退室してください。解答用紙を持ち出すことはできません。
※ 退出可能時間は、15時20分からとなります。
6. 「終わり」の合図があったら、ただちに筆記用具を置き、解答の作成をやめ、解答用紙を机の上に裏返しにし、試験係員から退席の合図があるまでお待ち下さい。
 - 解答用紙を持ち出すことはできません。
 - 問題用紙を持ち帰ることができます。不要な方は、問題用紙を所定の回収箱へ返却してください。

→引き続き、裏表紙の「解答作成にあたっての注意事項」をお読みください。

余白

余白

問題(1)～(25)は四肢択一式問題で、問題ごとに正解は1つしかありません。選択肢の番号①～④から1つ選び、解答用紙の該当する番号を黒く塗りつぶして答えなさい。1問につき2つ以上解答すると、その問題の解答は無効になります。

問題(1) 登録基幹技能者に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 登録基幹技能者とは、プロジェクト全体を統括的に管理する者である。
- ② 登録基幹技能者とは、職長として熟達した作業能力と豊富な知識を持った者である。
- ③ 登録基幹技能者とは、マネジメント能力に優れた者である。
- ④ 登録基幹技能者とは、国土交通大臣の登録を受けた機関が資格認定した者である。

問題(2) 登録基幹技能者に必要な資質に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 中核的役割を担う。
- ② 単純工としての施工能力のみを有する。
- ③ 部下を指揮・指導することができる。
- ④ 他業種との連絡・調整に努めることができる。

問題(3) 基幹技能者が行うOJT教育に関する次の記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① OJTは基幹技能者の仕事そのものと認識する。
- ② 基幹技能者の能力レベルに合わせて教育目標を定める。
- ③ 仕事のペースを落とさずOJTを行う努力をする。
- ④ 他職との接触機会を与える努力をする。

問題(4) OJTに関する次の記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① OJTでは、教育項目についてどのような指導・教育を行うか、個人別に計画表を作成する必要がある。
- ② OJTでは、その仕事に密着した実践的な指導・教育ができる。
- ③ OJTを行うことは、職場のコミュニケーションの活性化につながる。
- ④ OJTには、社員教育の一環としての集合教育も含まれる。

問題(5) 赤伝処理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 赤伝処理を行う場合は、元請負人と下請負人双方の協議・合意が必要である。
- ② 赤伝処理を行う場合は、その内容について合意があれば、見積条件・契約書面に明示する必要はない。
- ③ 適正な手続きに基づかない赤伝処理は、建設業法に違反するおそれがある。
- ④ 差引額については下請負人の過剰負担とならないように十分配慮することが必要である。

問題(6) 「建設業法令遵守ガイドライン」の記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 建設業の担い手を確保するために、処遇改善などを通じて建設業への若年層の入職者を促進することが必要である。
- ② 赤伝処理による一方的な差し引きなど、下請負人へのしわ寄せによって技能労働者への適正な賃金水準が確保できず、建設業が持続的な発展を遂げる阻害要因となっている。
- ③ 「建設業法令遵守ガイドライン」は、法律の不知に起因する元請と下請間のトラブルに対応していない。
- ④ 「建設業法令遵守ガイドライン」は、元請負人と下請負人との対等な関係の構築及び公正かつ透明な取引の実現を図ることを目的としている。

問題(7) 施工要領書作成上の注意事項の記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 一般的に常識的な事項については省略する。
- ② 施工要領書は原則として、工種ごとに作成する。
- ③ 施工方法は出来るだけ部分詳細図、図表等を主体とし、わかりやすいように記載する。
- ④ 図面には納まり、寸法、材料名称を記載し、材質等は省略する。

問題(8) PDCAサイクルの記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 第4段階(Action)において是正処置のみでは対応できない場合は、第1段階(Plan)の計画そのものを新たに設定すればよい。
- ② 適切に施工管理を行うためには、計画(Plan)、実施(Do)、検討(Check)、処置(Action)の4段階のサイクルを繰り返し実行することが基本となる。
- ③ Plan → Do → Check → Action を繰り返しながら作業を進めていくことを『PDCAの輪を回す』という。
- ④ 施工管理に係る登録基幹技能者の総合的な知識や経験などに、PDCA サイクルを運用する効率は大きく左右されるため、常日頃から技術や知識の習得と経験の蓄積に努めなければならない。

問題(9) 工程表の作成にあたって、主に施工方法の選定後に検討を行う事項として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 1日の最大施工数量。
- ② 作業可能日数の算定。
- ③ 投入可能な労務量。
- ④ 所要作業日数の算定。

問題(10) バーチャート工程表に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 縦軸は工事を構成する部分作業(部分工事)を表す。
- ② 工程作成には、順行法、逆算法、重点法の三通りの方法が用いられる。
- ③ 工事の進捗状況が容易にわかる。
- ④ 作業間の依存関係が明確にでき、それぞれの作業が全体の工期に及ぼす影響がわかる。

問題(11) 品質および品質管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 品質は、顧客や社会の要求レベルよりも十分に高いものでなければならない。
- ② 品質を構成する特性を品質特性と呼ぶ。
- ③ 設計品質(ねらいの品質)とは、設計段階で定められるものである。
- ④ 施工品質(出来映えの品質)とは、施工段階で実現するものである。

問題(12) 品質管理において活用される「QC7つの道具」として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 特性要因図。
- ② チェックシート。
- ③ パレート図。
- ④ 品質項目選定シート。

問題(13) 安全衛生管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 我が国の建設業の労働災害発生件数は、長期的には大幅に減少している。
- ② 建設業の労働災害発生率は、全産業の平均と同程度である。
- ③ 建設工事の型別死亡災害は、墜落が圧倒的に多い。
- ④ 建設現場では、作業員の入れ替わりが激しく、現場での安全教育、訓練が十分にできていないことが建設業の労働災害対策が難しい原因となっている。

問題(14) ヒューマンエラー対策に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 無知・未熟練・不慣れな作業員には、教育訓練以外の対策はない。
- ② 不注意による事故対策は、安全設備対策が効果的である。
- ③ 「近道、省略行動」の防止対策は「面倒だ」と感じるものを無くすることが重要である。
- ④ 心身機能が低下した高齢者に対する対策は、現場で働く全ての人々の快適な作業環境づくりにつながる。

問題(15) 追加工事等に伴う追加・変更契約に関する記述として、建設業法上**違反と
ならないもの**はどれか。

- ① 下請工事に係る追加工事等について、工事に着手する前又は工事が終了する前に書面により契約変更を行った場合。
- ② 下請負人に対して追加工事等の施工を指示した元請負人が、発注者との契約変更手続が未了であることを理由として、下請契約の変更に応じなかった場合。
- ③ 下請負人の責めに帰すべき理由ではなく、下請工事の工期が当初契約より短縮され追加の労務費が発生したときに、下請負人との協議にも応じず、元請負人の一方的な都合により変更の契約締結を行わなかった場合。
- ④ 契約締結時と実際の納入時との間で資材価格が下落したとき、下請負人と変更契約を締結することなく、元請負人が取り決めた代金を一方的に減額した場合。

問題(16) 専門工事業者の原価管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 請負契約時に明確な利益予測をするためには、ある程度以上の精度がある見積原価が必要である。
- ② 見積原価の管理段階では、不明な点は質疑して請負条件を明確にする必要がある。
- ③ 実行予算は、見積原価や標準単価などを根拠にして作成する。
- ④ 実行予算と実績を比較しながら、予算内に収めるように施工管理する。

問題(17) 専門工事業者の予算実績管理に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 原価管理では、まず元請対応が重要であり契約した工事がスムーズに行くように先を見通して元請と打合せする。
- ② 現場においては、施工量に応じた効果的な人員配置により、人工数の目標を管理することが重要である。
- ③ 他の外注業者との調整がうまくいかず、作業が滞ったり手戻りとなったりすると、原価を圧迫することになる。
- ④ 元請とは随時の打合せをしなければならないが、追加の契約外工事については最終的にまとめて打合せする。

問題(18) コンクリートに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 一般的にセメントペーストは、コンクリート容積のおおよそ 1/3 を占める。
- ② 一定の条件下では、水セメント比が大きいほど強度は大きい。
- ③ 練り混ぜ後の強度増進にとって、湿潤養生は乾燥養生より好ましい。
- ④ 健全なコンクリートは、pH 12 から 13 の強アルカリ性である。

問題(19) 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 鉄筋コンクリート構造は、鉄筋とコンクリートが互いの弱点を補う構造である。
- ② コンクリートは、火に弱い鉄筋や錆びやすい鉄筋を保護している。
- ③ コンクリートのかぶり厚さとは、コンクリート表面から鉄筋の中心部までの距離のことである。
- ④ 柱の主筋に所定の間隔で、巻き付けた水平方向の鉄筋を帯筋(フープ)という。

問題(20) 鉄筋コンクリート構造の耐久性に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① コンクリートが中性化するとコンクリートの強度は、大きく低下する。
- ② ひび割れ発生による機能低下の程度は、ひび割れ発生位置のほか、幅や深さによっても異なる。
- ③ コンクリートの凍害とは、コンクリート内部の水分が凍結と融解を繰り返すことで、ひび割れが発生したり、表層が剥離したりする劣化現象のことである。
- ④ コンクリートのひび割れ発生要因は、コンクリートの材料・調合、施工・使用環境、構造・外力など多岐にわたる。

問題(21) アンカーボルトに作用する力に関する記述として、**最も不適当なものは**どれか。

- ① 動的な外力の「動的」とは、時間の経過とともに力の作用する方向や大きさが変化するということである。
- ② アンカーボルトに作用する静的な外力には、構造物や機器類の自重、土圧あるいはこれらによって引き起こされる力がある。
- ③ あと施工アンカー部に生じる応力は、ボルトに作用する力の方向により、引張力、圧縮力、せん断力などに分けられる。
- ④ 4～5階建ての建物が地震力を受ければ、最上階に設置した機器のアンカーに作用する力は、1階のものより小さい。

問題(22) あと施工アンカーの構造性能に関する記述として、**最も不適当なものは**どれか。

- ① 引張力を受ける金属拡張アンカーの破壊モードは、コーン状破壊になることが多い。
- ② 引張力を受ける接着アンカーでは、硬化した接着剤にせん断抵抗力が発生する。
- ③ 接着アンカーが引張力を受けた場合の破壊モードは、埋め込み長さが短い場合、アンカー筋が破断する。
- ④ アンカーを接近して打つと、群効果によりアンカー1本1本が100%の力を発揮することはできない。

問題(23) あと施工アンカーの施工に関する記述として、**最も不適当なものは**どれか。

- ① コンクリートドリルは、穿孔しようとする長さよりも若干長い有効長のものを用いる。
- ② 旧孔を利用して傾斜穿孔を行う場合、その角度は15度を超えるものとする。
- ③ 接着アンカーのマーキング方法では、アンカー筋の先端が孔底に当たるまで差し込む。
- ④ 本体打込み式アンカーは、打込みの「手応え」または「音」が変わるまで打ち込む。

問題(24) 母材コンクリートの調査に関する記述として、**最も不適当なものは**どれか。

- ① アンカー施工位置の鉄筋や埋込み金物を非破壊的に調査する方法として、電磁波レーダー法などがある。
- ② 施工者は、施工位置の周辺にひび割れや豆板がある場合は、管理者に報告して対策を協議する。
- ③ 母材からコンクリートコアを採取する場合のコアの直径は、骨材の大きさを考慮する。
- ④ 中性化試験において、中性化した部分のコンクリートは、フェノールフタレイン溶液を噴霧すると赤紫色に変色する。

問題(25) あと施工アンカーの検査に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 接着アンカー(カプセル型)の接着剤の有効期限は、受け入れ時に半数以上検査する。
- ② 接触検査では、アンカーを直接手で触れ、アンカーの固着状態(がたつきの有無、接着剤の硬化状態)を判定する。
- ③ 施工業者が行う自主検査は、原則として、アンカー全数を対象として行う。
- ④ 施工者は、自主検査の結果、不良が見つかった場合、必要があれば是正し、現場責任者に報告する。

余白

【解答作成にあたっての注意事項】

1. この試験問題は、四肢択一式問題25題＜問題(1)～(25)＞です。
2. 解答用紙の所定欄に、氏名(フリガナ)・受験番号を記入してください。受験番号の欄は、記入例を参照し、間違いのないよう塗りつぶしてください。
3. 解答用紙の受講番号および解答欄へのマークは、HB(またはB)の黒鉛筆を用い、該当する箇所をていねいに黒く塗りつぶしてください。ボールペンを用いると、機械で読み取れず、解答はすべて無効(0点)となります。訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから正しく記入してください。
解答用紙は機械で読取り処理します。記入の仕方が悪い場合や消し方が不十分な場合は、無解答や二重解答と判別され、無効となりますので注意してください。
4. 問題(1)～(25)は四肢択一式問題で、問題ごとに正解は1つしかありません。選択肢の番号①～④の中から1つ選び、解答用紙の該当する番号を黒く塗りつぶしてください。1問につき2つ以上解答すると、その問題の解答は無効になります。

【解答用紙(マークシート)の記入例】

記入例	良い例	悪い例				
						

以上